

## 2023 年度第 2 回浜松市総合教育会議

開催日時：2023 年 12 月 26 日（火）15:30～16:40

出席者：市長、教育長、安田委員、黒柳委員、田中委員、神谷委員、鈴木委員

傍聴者：4 名、報道関係者 3 名

開催場所：浜松市役所庁議室

---

### 次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 浜松市教育推進大綱について
- 4 報告事項
  - (1) 第 4 次浜松市教育総合計画の進捗について
- 5 閉会

---

### 1 開会

（企画調整部長）

それでは、ただいまから、2023 年度第 2 回総合教育会議を開会いたします。本日の出席者は、お手元の出席者名簿のとおりで皆さまご出席でございます。

それでは、会議の開催にあたりまして、市長からあいさつをお願いいたします。

### 2 市長あいさつ

（市長）

教育委員の皆さまには、年末の大変お忙しい時期にもかかわらず、第 2 回総合教育会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

今回、教育推進大綱を前回に引き続いてご協議いただくとともに、教育総合計画策定の進捗状況についてのご報告をさせていただくこととしております。

教育推進大綱については、前回さまざまなお意見を伺ったところでございます。前回のご議論も踏まえまして、大綱の体裁、あるいは内容について、関連が深い国や市の各種計画でありますとか、他の都市の状況などもまとめた資料を基に、引き続きご議論をいただくこととしております。併せて、大綱と関連しております教育総合計画策定の状況についてもお報告をさせていただきます。

限られた時間ではありますけれども、本日の議論が実りあるものになりますよう、そして

来年度に控えております教育推進大綱、教育総合計画の策定、これに続くものとなるように忌憚のないご意見を賜りますよう、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(企画調整部長)

それでは、本日の議題に移ります。

ここからの進行は市長にお願いします。

### 3 協議事項

#### (1) 浜松市教育推進大綱について

(市長)

それでは、お手元の次第に沿って、議事を進めてまいります。

まず3番目の協議事項からでございます。はじめに浜松市教育推進大綱について、事務局からの説明をお願いいたします。

(企画課長)

資料1をお願いいたします。浜松市教育推進大綱についてでございます。1には大綱の定義を記載しております。こちらは、国の教育振興基本計画における基本的な方針を参酌しながら、その地域の実情に応じ、教育、学術及び文化振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとされています。

2の協議内容です。①大綱の体裁ですけれども、こちらはA4用紙1枚程度で策定をしていきたいと考えております。

その理由としては、大綱は目標や施策の根本となる方針を定めるべきものであるという性質、それから分量が多くなり過ぎず、わかりやすさを検討した結果、A4用紙1枚程度が良いのではないかと考えております。それから、現行の大綱もA4用紙1枚で策定をしているということや第1回の総合教育会議でもA4用紙1枚と前回決めたのはよかった、コンパクトにわかりやすい形でまとめてほしい、といったご発言をいただいていることから、A4用紙1枚程度で策定をしていきたいと考えております。

②の大綱の期間ですが、期間は令和7年度からとし、5年を目途に見直しの可否を検討していきたいと考えております。

その理由としては、浜松市総合計画基本計画、第4次浜松市教育総合計画の始期とあわせまして、令和7年度を開始年度としていくものとしております。

大綱は普遍的なものを想定しておりますけれども、社会環境の変化等を考慮すると5年ごとに見直しが必要かどうかを確認していく必要があるのではないかと考えておりまして、5年を目途に見直しの可否を検討することとしております。

③の冒頭、一番上の四角ですが、こちらには浜松市の教育に対する基本的な考えを記載し

ていきたいと考えております。

下のボツでございませうけれども、市の教育に対する考えや方針、子供たちに育ってほしい姿などを文章にして記載し、浜松市の各種計画の理念や、市長の思いなどを含めていきたいと考えております。

その下です。柱となる項目を3つ程度記載ということで、別紙1-1では項目1、項目2、項目3ということで枠を置いておりますけれども、こちらには市全体で子供たちの教育施策を支えるための柱となる方針を入れることを考えております。

この理由としては、現大綱も同じく柱となる項目を3つほど作成しており、第1回の総合教育会議でも、誰もがわかりやすいというのが一番重要とのご発言をいただきましたので、3つ程度がまとまりとしてはいいのではないかと考えております。

これらを踏まえまして、次期大綱に記載をしていく言葉の候補としまして、別紙1-2の各種計画から、キーワードとして別紙1-3に抜粋をしております。

別紙1-2をお願いいたします。浜松市教育推進大綱に関連する計画における理念等を記載しております。まず1として国計画の理念ですが、第4期教育振興基本計画から、コンセプトとして、2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成、日本社会に根差したウェルビーイングの向上というような理念を記載しています。

基本的な方針として5つ、①のグローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成から、⑤の計画実行性確保のための基盤整備・対話まで、5つの基本的な方針が示されております。

2ページからは、浜松市の各種計画の理念を記載しています。1つ目は「浜松市総合計画」です。(1)の基本構想、浜松市未来ビジョンでございませうが、こちらには都市の将来像として、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」。「技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ」、「小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす」、「新しさを生む伝統を未来へつなぐ」、この3つの「創造都市」「市民協働」「ひとづくり」というキーワードにつきましては、現行の教育推進大綱にも記載されているキーワードになっております。

その下には「1ダースの未来・理想の姿」を記載しています。

3ページをお願いします。浜松市総合計画の基本計画を記載しております。こちらは令和6年度の改定に向けて、現在作業中ですが、ここには現行の計画を提示しております。

基本計画の子育て・教育の分野における、未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿として「地域の宝として愛情を注がれた子供たちは、浜松に誇りを持ち世界を舞台に活躍している」という姿を記載してございませう。

下の方には、文化・生涯学習のビジョンの実現に向けた将来の理想の姿として「創造都市を実現し、音楽の都として世界から注目されている」ということで記載しております。

4ページは、浜松市の第3次教育総合計画を記載しています。こちらでも次期計画の策定に向けて現在検討中ですが、現行計画には教育理念や目指す子供の姿等を記載しておりますので、こちらについても、今後の第4次計画とあわせて教育推進大綱への記載も検討してい

く必要があるかと考えております。

5 ページには、浜松市子ども・若者支援プランと生涯学習推進大綱、浜松市文化振興ビジョンのそれぞれの理念等を記載しています。この内、浜松市子ども・若者支援プラン及び生涯学習推進大綱につきましては、いずれも令和 6 年度の改定に向けて現在検討中です。

別紙の 1-3、次期大綱のキーワードをお願いします。こちらに今ご説明した各種の計画から、キーワードとなりそうなワードを、抜粋をして記載しております。浜松市総合計画の都市の将来像とか、1 ダースの未来とか、国の基本計画等のキーワードを記載していますが、こちらを参考にさせていただきながら、先ほどの別紙 1-1 の教育に対する基本的な考えや、柱となる項目について、本日皆さまのご意見をいただければと考えております。

参考 1-1 ですが、こちらには各政令指定都市の大綱における柱や方針などを記載しています。

参考 1-2 として、第 1 回総合教育会議での皆さまのご発言について、主な発言を記載しております。

資料の説明は以上です。

(市長)

基本的に論点が大きく 3 つ示されております。それに従って、順番にご意見を伺います。

資料 1 にありますとおり、本日は協議内容として、①に大綱の体裁、②として大綱の期間、③として大綱の内容となっておりますので、まず 1 つ目の大綱の体裁について、ここでは A4 用紙 1 枚程度ということで示されています。現行の大綱がまさにこの状態になりますので、この点についてご意見、ご質問がありましたら、どなたからでも結構ですので、お願いできればと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

(安田委員)

体裁については、前回のときもお話しましたがけれども、今示されている案、特に別紙 1-1 のような形で、A4 用紙 1 枚というのは、私はわかりやすくいいのではないかと思います。

(市長)

安田委員からそのようなご意見でしたけれども、いかがでしょうか。

他の市の作りなども今回まとめて、参考 1-1 にもありますけれども、ページ数 1 ページに収めた形で作っている市も結構ある一方で、膨大なページ数を割いて大綱を作っている市もあります。こういったものを参考にしつつ、いかがでしょうか。

(黒柳委員)

浜松市の教育推進大綱となるので、わかりやすいというのが一番だと私は思っていて、ページ数が多いと内容も盛りだくさんになって、見る人もそんなに見なくなります。なので、A4 用紙 1 枚程度でまとめていただけるのが一番いいのかなと思います。

(市長)

他にはいかがでしょうか。

前回も同じようなご意見をいただいていたと思うのですが、同じ時期に教育総合計画を策定することになりますので、より具体的な内容については教育総合計画の方に詳細に位置付けられるということで、大綱はあくまでも大綱として、大枠をお示しするという観点から、1 枚程度にコンパクトにわかりやすくまとめるという方向で、皆さんよろしいでしょうか。

<異議なし>

(市長)

そのような方向で、これから準備をしたいと思います。

続いて 2 番目の協議事項、大綱の期間をどうするかということです。令和 7 年度からの計画とした上で、5 年間で 1 つの区切りとして見直しの要否について検討する形で期限を定めていくことをお示ししましたが、これについてご質問、ご意見をいただければと思います。

ちなみに他の都市の状況は、この一覧表で期間について特段なかったかと思いますが、5 年を一区切りにしているような政令指定都市が多いような状況ですし、加えてこの現行大綱についても、5 年で見直しをかけておりますが、いかがでしょうか。

(田中委員)

社会変化を考慮して 5 年で、ということを記載してありますので、妥当かなとは思いますが、けれども、やはり昨今の社会情勢等鑑みますと、今もしていると思いますが、中間である程度の評価をしていく必要があるのかなと思います。そういった大綱があるかをお尋ねします。

(企画課長)

具体的に何年間の指標などを定めた計画ではなく、大きな方向性を示している大綱ですので、具体的に数値的な評価はしていませんが、適宜、田中委員がおっしゃったような社会状況の変化など、必要に応じて、総合教育会議にも諮りながら確認をしていきたいと考えております。

(市長)

具体性を持った計画だと、PDCA サイクルを回すというようなことが一般的で、通常は毎年進捗状況の確認をしますが、大綱という話ですともう少し大枠ですので、毎年進捗状況を確認するのは、少しなじまないのかなという気はしております。

ただ、一方で、社会経済情勢の移り変わりも非常に激しいこの世の中ですので、大綱で示している方向性が、今の世の中の流れとずれてはいないかというようなことは、ある程度のところで確認をしていく必要はあるのだろうと思っていまして、5年ごとの見直しというのは一番大枠としてはするのですが、この社会情勢ですから、もう少し間に点検をやった方が確かにいいのかもしれませんが。常設のこの総合教育会議で中間的な評価というか、ずれてないかというような確認をやっていくのは意味があるのではないかと思います。

これから次の大綱を策定するにあたって、そういったことを含めてお示しをできるよう、準備をします。

(安田委員)

現在の大綱を最初に作ったときを私たちは存じ上げないのですが、最初は何年ということだったのでしょうか。

(市長)

基本的に5年で見直しをかけるとしていました。

(安田委員)

5年前も私は教育委員でしたので、5年前に大綱の見直しということで、確かに総合教育会議で議論をして、今ここで書かれていることは、現在も大事だしこれからも大事だねという話をして、現状のまま行きましょうという話をした記憶があります。そうやって考えると同じように5年にして、そして5年目にもう一度考えて、そのときの情勢ですごく大きく変化していたら変える必要があるでしょうし、理論的なものは変わらないという話し合いになるならそのままでいいと思いますし、ですから、数字的にはこんな形でいいのではないかなと思います。

(市長)

社会経済情勢の変化をどれくらい早いと捉えるか。そしてそれをどの程度まで逐一大綱に反映するかというところで、また議論もあろうかと思しますので、他の自治体での取り組みの状況をまた調べまして、最終的に5年で見直しをかけるという大枠については、維持しつつ、一方で途中の段階で評価をする、しないを含めて、またやり方についてはご相談させていただきたいと思っています。

基本5年計画、5年での再評価、見直し、そういう大枠については、皆さんよろしいでし

ようか。

<異議なし>

(市長)

それでは、これも前回と同様、5年を目途として見直しをするという前提の大綱としていくということに、まずはさせていただきます。

そして、今日の協議事項の3点目でありますけれども、大綱の内容についてです。これについては、ブレインストーミングも含めて、キーワード的なことをぜひご意見いただければと思っております。

先ほど説明もありましたとおり、国の計画あるいは市の計画、とにかく人づくり、教育という点でどういったことが示されているのか。また、前回ご議論いただいた中で、重要なキーワードと思われるようなものも一案でまとめさせていただいております。

これまでに、A4用紙1枚にコンパクトにまとめていく、別紙1-1というような作り方、大枠をお示ししたわけですが、ぜひともこういう内容については、盛り込みたい、盛り込んだ方がいいというようなご意見を含めて、これから大綱を作っていくにあたってのポイントとなる点について、ご意見をいただければと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

(鈴木委員)

形式的な話かもしれませんが、先ほど国とか市の総合計画の説明で、総合計画が一番の上位ということになると思います。その後の教育総合計画とか、子ども・若者支援プランとか、生涯学習推進大綱とか文化振興ビジョンというのは、その中では上位、下位という位置づけはされているのでしょうか。

(市長)

市の場合は総合計画が最上位計画になりますので、その下位計画、分野別の計画がそれぞれの計画ということにはなっております。前回この大綱の位置付けについても説明し、模式図があったかと思っておりますけれども、総合計画のもとで教育総合計画というのは分野別計画として位置付けられるわけです。一方で大綱は総合計画と並ぶような形になるかと思えます。総合計画と大綱があって、教育総合計画が分野別計画になるという模式図になります。

(安田委員)

後でまた上位、下位の関わり方を見た上でお話をお聞きしたい部分もあるのですが、別紙1-1で基本的な考えをまず記載して、そして項目を3項目ぐらい立ててという形はわかったのですが、例えば別紙1-1と別紙1-3を並べたときに、一番上の基本的な考えのところに入るキーワードは、現大綱に含まれるキーワードよりも上の部分とか、全部をキ

ワードとしてちりばめて意識をすればいいのか、基本的な考えと項目のところに大きく線が引けると思うのですけれども、基本的な考えのところに下の項目のところに大きく2つに分けたときに、このキーワードはどう捉えたらいいか、何か案があったら教えてほしいのですが。

(企画課長)

別紙1-3に記載のキーワードについては、どこに入れてほしいということで分類をしているものではありません。大きな言葉については、教育に対する基本的な考え、基本的なところに入ってくるようになるのかなというようなイメージは持っておりますけれども、特段そういう区分を持ってご議論いただくように、作ったものではありませんので、思うところでご意見をいただければと考えております。

(安田委員)

冒頭の基本的な考えがまとまらないと、たぶん項目1、2、3というふうにはいかないと思うので、まずその上の部分、大きな四角のところをある程度決めていかなければいけないのですが、それは例えば今日の議論の中から出てきたもので決めていくならば、まずその上の部分だけどんな言葉を、どんな思いをというように絞っていったほうがいいのかと思いますが、どうでしょうか。

(企画調整部長)

やはり、基本的な考えということですので、理念的なところですが、一番上の部分を何かしら作った上で、それぞれの分野別の項目1、2、3というような形にする方がよろしいかと思います。

(市長)

基本、これからのまちの未来とか、それを支える人の未来、そういう意味での人づくりというところがまず上にあって、それを実現していこうと思うと、具体的にどういったことをやっていかなければいけないのかということになると思いますので、たぶん一番上の箱に入る、まちの未来、人の未来、それを端的に表すような表現みたいなことを、まず決めていかないといけないのかなと思います。

(田中委員)

冒頭部分の件でよろしいですか。私はこの冒頭部分は、市長から市民に向けたメッセージと捉えておりまして、もしそれが間違っていないのなら、ぜひ市民に向けて、よく市長が常々いろんなところでおっしゃっている、人づくり、まちづくり、地方創生、子供たちがそういうことにつながるような思いを入れていただくのが、いいのかなと思っていたのです。



が、いかがでしょうか。

（市長）

せっかくですので、英知を集めてこのまちの未来をどうしていくのか。そしてそのまちを支える人をどうしていくのかということを、まとめていくという方がいいのではないかと私は思っております。

ただ、ここで議論をしていっても、そんなに大きく違うような話にはなっていないと思いますし、ベースとしては現行の教育推進大綱があって、その考え方を大きく変える必要があるのかないのかというところがまず、核としてはあるのだろうと思います。おそらくチャレンジスピリットみたいなどころなどは、それがこのまちの未来という点でも、この浜松を支える人の未来という点では、一番の浜松の強みであり特徴だと思っていますので、そういったものを教育の観点からも生かしていくということは、外せないだろうとは思っています。

（安田委員）

ここの部分で先ほど市長が、自分の思いだけではという話があったのですが、そう思ってくださるのがとても大事だし、私たちも存在意義がなくなってしまうので、もちろんそうあってほしいです。

私はいろいろな所でいろいろな違う言葉を使われてしまうと、聞く人たちはわからなくなってしまうので、いろいろな所で結局同じ言葉が出てくる、これが浜松なのだなというように最終的になるといいと思っています。

ですから、今市長がおっしゃった、例えば「まちの未来、人の未来」とかそういう言葉。それから私は市長になったときの使命だという言葉の中に、「浜松から地方創生」とか「もっと元気な浜松」というような言葉があって、それをこういう所でもうたい、そして市長がまたある場面でも言い、そうするとみんなが、もっとみんなで浜松を元気にしていこうとか、浜松から地方創生をやってくんだぞって、思うといいなと思います。

できる限り教育総合計画も大綱も、生涯学習推進大綱などいろんなものに、同じ言葉がちりばめられていて、それが心に残るといとか、人々に訴えかけるものになるといいと思っています。

（教育長）

教育的立場からすると、現在の教育推進大綱もしっかりできているので、かなり参考になると自分は思います。

市長が日頃から言われていることを考えたときに、市政報告等で「しごと」「ひと」「まち」と3つの言葉が使われています。この言葉を言い換えると、今の「人・環境・まち」というのと、ちょっとオーバーラップしていることもあるので、市長の市政報告や現在の大綱を参考にしながら、よく出てくるキーワードを持っていったらどうかと思っております。

(市長)

今の一連のご議論ですと、まずは書いてみろという話になります。一番上の箱に入るような文章をまずは用意させていただくということでしょうか。

そのときに、どうしてもこういうような話は入れておいてほしいというようなご希望はありますか。

(安田委員)

今、この時代だからこそ私は、コロナ禍をくぐり抜けたというか、私たちがすごい3年間で越えてきたというものは入れ込んで、その上でもっと元気な浜松にしたいとか、そういうふうにしたいと思っています。

前回の教育推進大綱の策定のときは、東日本大震災の後だったけれども、それについては一切触れていないので、そういうマイナスな要素は触れない方がいいのかなというような思いもある反面、コロナ禍で私たちはいろんなことが変わりましたので、それを乗り越えたというか、これからもそういうことは何が起こるかわからないので、そういうものに耐えうるというか、そういうものが来ても大丈夫、そんな姿勢を出していったほしいなと思います。

(市長)

コロナを乗り越えたという話を、具体的に入れたらどうかというのはちょっと悩みどころであります。ただ、一方でこの浜松の歴史を振り返ってみるときに、度重なる困難が浜松はあったのですが、そのたびに困難を乗り越えて成長し発展を遂げてきた。その原動力はやはりやamaiか精神だと思っています。

そういう観点から、どういうふうに触れたらいいかわからないですけども、やamaiか精神ということに絡めて、今おっしゃったような話は触れてみたいと思います。コロナというところまで具体的に書き込むのがいいかは考えさせてください。

そうしましたら、たたき台的にこちらの方で、一番上の箱はまずまとめつつ、次回はそれをベースにご議論をいただくということでしょうか。

その上で狭義的にこのまちの未来、まちの目指す方向性として、そのまちを支える人、そして人づくり、目指す方向性みたいな話を一番上の箱に入れるのですが、そうは言ってもそんなに今の大綱の内容が大きく変わってくるものではないと思っています。そういう前提を考えたときに、この下にぶら下がるいくつかの項目。ここにどういうことを入れ込めばいいかについても、併せてご意見があれば、この際ですのでおっしゃっていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

(田中委員)

1点お尋ねしたいことがございます。先ほど別紙1-2の中の5ページ、3の第2期浜松市子ども・若者支援プランについてですけれども、令和2年に策定されたものになっております。こちらの基本理念を見ますと、とても重要なものかなと感じておりますが、しかし、その横に改定に向け検討中ということになっております。改定案など今後の方向性について、具体的なものがありましたら少し教えていただきたいと思います。

(市長)

これも最終的には総合計画の基本計画改定と併せて、分野別計画として改定をしていくわけですが、今具体的に決まっている方向性がありますか。

(こども家庭部長)

計画の策定作業は今年度から来年度にかけて行い、策定されるのは来年度末となります。さらに言うと、今は「子ども・若者支援プラン」という計画になっているのですが、次の計画は「子ども・若者支援プラン」とは別に計画を今作っている貧困の計画、加えて少子化に関する計画、この3つを盛り込んだ「子ども計画」として新たに作り替えることになります。

ですので、今の基本理念にある言葉に見合うものが、いつこの中でお示しできるかという、現時点で、いつ頃こんな形でというのは、お伝えするのは難しいかなと思います。

(市長)

現行のプランの基本理念が間違っていたとか、陳腐化して役に立たないとか、そういう判断では少なくともありません。こういった理念は基本的には生かされていくというふうには思っているのですが、ただ、今申し上げましたように、いろんな計画をまとめて1つの計画にしていくので、具体的にそのままの内容で理念として置くかどうかは、まだ決まっていけないということになります。

(教育長)

教育委員会の立場での発言にはなりますが、来年度、一層浜松の魅力というような部分で学校の方も、浜松を理解して、浜松に誇りを持って、そして浜松を創造する人が育つような授業を考えているところです。

キャリア教育については、今年度も東小学校と東部中学校が文部科学大臣表彰を受賞し、3年連続で市立の学校が受賞となるなど、キャリア教育にも力を入れていますので、何かそのような内容も、言葉は違っても結構ですので、入れていただけたらありがたい。

(市長)

教育委員会制度の中で、教育について私があまりとやかく言うと、本当はいけないはずなのですが、この総合教育会議の場は大手を振ってものを言える唯一の場だと思っていますので申し上げます。浜松で素晴らしい人材を育てる、人をつくっていく。ただ、作上げた素晴らしい人材が全部外へ出て行ってしまっ、浜松に見向きもしない、帰って来ないとなるのは、非常に大きな損失だと思っていますし、そんな子供たちを育てるつもりはないというような思いも私はあるものですから、ぜひこのキャリア教育を含めて、郷土愛というとなちちょっと変に取られるかもしれないですが、浜松のまちを支える素晴らしい人材を育てるというような観点からの内容も盛り込んでいきたい、と思っているところです。今おっしゃっていたことも含めてですね。

(神谷委員)

現行の大綱は学校教育だけでなく、かなり社会人になってからの生涯教育も含めて、文化・芸術と幅広いものになっていますが、次に作る時も学校教育だけではなく、もっと幅広い人づくりという意味で大綱を作る予定でしょうか。

(市長)

生涯教育の観点は人づくりの中では非常に重要だと思っていますので、学校教育、とりわけわれわれの所管の義務教育に限らず、もう少し広い目で見たい人づくり、そういったことをまたここに盛り込むことでやっていきたいと思っています。

どこまで入れるかというのは、まさに皆さんのご議論だと思いますけれども、どうしても中心となるのは小学校、中学校、義務教育です。われわれのとりわけ所掌の範囲というのですが、決して生涯教育の部分を忘れるとか排除するというつもりはありません。

(田中委員)

先ほどの神谷委員の発言と同じようなものなのですが、教育分野以外の学術・文化、そういった心の豊かさを求めるような文言を入れていただきたいなと思っています。現行の教育推進大綱は、文化については言及されておりますけれども、スポーツについてのワードが見いだせないところがありますので、そういった観点を少し持っていただけるとありがたいかなと思っています。

(神谷委員)

大綱の話とはずれるかもしれないですが、浜松から人が出ていくという話がありました。その方たちがUターンしようと思ったときに、もちろん仕事とか娯楽とか、いろいろな理由がある。戻って来られない理由とかもあると思うのですが、その理由の1つとして、浜松の教育について若干都会と比べると不安を感じて、Uターンするのをどうしよ

うかなと思われる方もいると聞きます。さっき言われたように決してそんなことはなく、都会と比べると選択肢はもしかしたら少ないかもしれないですけども、きちんとした環境は整っているというふうに思います。

子供が来ても、浜松は十分大丈夫ですよというふうに、外に広く発信するということは大事だと思います。それでその人材が戻って来るとも、かなりあるのではないかなと思ってます。子育て支援とかは、浜松はすごく充実していて、医療費の問題とかもあって、住みやすいですよ、子育てにはいいですよと言いますが、中学生や高校生ぐらいでこっちに来ようと思うと、教育が心配ですよという方も中にはいらっしゃるんで、その辺はすごくいい教育環境ですよ、というようなものがもう少し発信できると、戻って来る方も安心して戻って来られるのかなと思います。その辺り、東京で過ごされた市長はどのようにお考えか、少し聞かせていただいてもよろしいですか。

(市長)

浜松から出て行ってしまった若者が戻ってくる。あるいは外から縁もゆかりもないけれども浜松に来てもらうということを考えたときに、まず 1 つには働く場がないと入って来ようがないという話があります。これも実は働く場が浜松にないわけではなくて、いっぱいあるけれども知られていないみたいなこともあって、発信不足を痛感しているところです。

仮にその働く場があって人が入って来るとなった場合に、次にここでずっと長く生活しようと思ったときに必ず言われるのは医療と教育なんですね。医療の方は病院も充実していますので、これは大丈夫だというのは、比較的皆さんに理解してもらいやすいのですが、教育はまだ、都会と比べると教育の質が落ちるのではないか、みたいなことを思っている方が多くて、実はそうではないですよ。とりわけ高等学校の無償化なんかも進んで、小学校から高校まで充実した教育が提供されているということを、もっと多くの人にわかってもらわないと、選ばれる浜松にならないということがありまして、既に充実している教育環境にあるということの発信というのも重要だと思っています。

それでは、いただいたご意見などを踏まえまして、次回までに素案を準備したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

協議事項としては、今の教育大綱についてになるわけですけども、報告事項として、教育総合計画の策定作業の進捗状況について、報告いただければと思います。

#### 4 報告事項

##### (1) 第4次浜松市教育総合計画の進捗について

(教育総務課長)

現在策定中の第4次浜松市教育総合計画の進捗につきまして報告をいたします。9月に行われました総合教育会議では、国の動向や現行の第3次浜松市教育総合計画の状況、成果に

つきまして、また、これらを受けて次期の教育総合計画のコンセプトについて説明をし、委員の皆さまからさまざまなご意見をいただいたところです。

本日はその後の動きとしまして、11月に第2回の策定委員会を開催したため、そこでの内容等にも触れながら、計画策定の進捗状況を共有できればと思っております。

では、お手元の資料2をご覧ください。11月14日に第2回目となる第4次浜松市教育総合計画策定委員会を開催し、目指す子供の姿などにつきまして協議を行いました。

まず(1)教育理念でございますけれども、こちらは前回の会議でお示した計画のコンセプトを基に、描く夢や未来の実現としております。前回の会議でお示したコンセプトのとおりです。

続きまして(2)目指す子供の姿です。現行の第3次計画では目指す子供の姿を、自分らしさを大切にすること、夢と希望を持ち続ける子供、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供、としています。概念的にはこれらの内容を継承しつつ、第4次計画のコンセプトである主体性・多様性・包摂性・信頼・協働を反映させたものが「自分らしさを大切に、自分が描く夢や未来の実現に向けて、互いを尊重し合い、他者と協働したり自己調整したりしながら粘り強く取り組む子供」となります。

なお、ここでいう自己調整とは、子供自身が目標を立てて、自分の行動を振り返り評価しながら、次の行動を決定していく様子。いわゆる主体性や自主性といったことを表しています。

続きまして(3)目指す教職員の姿でございます。こちらは教育公務員特例法に基づき策定されている浜松市校長育成指標、浜松市教員育成指標において、目指す姿をすでに示しており、安全・安心で持続可能な学校づくりに務める校長、学校や地域の強みを生かした創造的な学校経営を進める校長、愛情と情熱を持ち続ける教職員、専門性と指導力を磨き続ける教職員ということにしております。

これらを継続しつつ、目指す子供の姿と同様に、第4次計画のコンセプトを反映させたものが「安全・安心な学校づくりに向けて、学校や地域の実情に応じた創造的な学校経営を進める校長。豊かな人間性に裏打ちされた教育に対する愛情と情熱、規範意識を持ち、自ら専門性と指導力を磨き続ける教職員」ということにしております。

また、裏面には参考としまして、基本方針や施策等を掲載しています。第2回の策定委員会では、目指す子供の姿、目指す教職員の姿、また、今後の方向性としてどのような施策が重要になってくるか、などについて協議を行いました。

策定委員会の中では主な意見としまして、目指す姿は保護者や子供にもなじみやすい言葉の方が伝わりやすいのではないか。

教職員に求められるものが、過去と現在では大きく変わってきていることから、今後を見通して必要な知識やスキルの整理が必要ではないか。

似たような表現が多く抽象的であるため、言葉の整理やわかりやすくするための表現の工夫をすると良いのではないか。

浜松市として「はっ」となるようなキーワードや、浜松らしさがあると良いのではないかな。  
等の意見をいただいております。今挙げたもの以外にも多くの意見をいただいておりますが、今後、いただいた意見を参考に、計画の策定を事務局の方で進め、2月に開催予定の第3回策定委員会におきまして、改めて理念や目指す姿、方針等についてお示ししつつ、協議を行う予定です。

説明は以上です。

(市長)

これについては、皆さんこれまでもご議論いただいていると思いますので、何か補足とか、あるいはこういった議論を進めているからこそ、大綱にはこういった話を盛り込んでもらいたいとか、そういったお話があれば、ご発言をいただければと思いますが。いかがでしょうか。

今も説明がありましたとおり、こちらの教育総合計画については年度内にもう1回議論があると思いますので、引き続きぜひ良い計画策定に向けてご意見をいただければと思っています。よろしくお願いいたします。

それでは、本日予定をしていた議論の内容については以上となります。

後の進行を事務局の方でお願いします。

## 5 閉会

(企画調整部長)

ご協議ありがとうございました。

次回は大綱の基本的な考え方などを、具体的に記載したものをお示しし、ご協議いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第2回浜松市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

(終了)